

磯馴松通信2016

東松島市立矢本第一中学校便り

東松島市小松字上浮足194番地

TEL 82-2146 Fax 82-7995

地元に残るか？ 離れるか？ 進路特設学習より（その1）

1月10日（火）の午後は、矢本一中の全生徒が市民体育館に一堂に会し、進路特設学習を行いました。



3年生は、進路へ向けて本格的に取り組む心構えを作る時期です。2年生は、職場体験学習で大切な学習をし、最上級生へと飛躍する準備の時期です。1年生は、中学校生活の大きな行事をほぼ経験し、後輩を迎えようとしている時期です。こうした時期に、自分の進路意識を高め、学習や生活に生かしてほしいという趣旨で設定した学習です。

この学習は、『学び合い』の形で行われました。一方的に、指導者が情報を伝達する形の授業ではなく、課題を生徒自身がとらえて、それぞれの考えを、生徒同士で交流させながら、最終的に課題を達成できるようにする授業です。

しかも、全校で行うことで、矢本一中生の団結の力を学習の面でも表現していこうという意図もありました。

さて、学習の課題は次のものです。

課題1（300字以内で書きます。）

将来あなたは地元で生活しますか。地元を離れて生活しますか。

その理由を、中学1年生が納得できるように書きなさい。

この課題を書き終えたら、3人以上の生徒に見せて納得してもらいます。そして、その生徒からサインをもらいます。ただし、3人のうちの一人以上は他の学年の生徒とします。

この課題を生徒は意外に「やさしい」と感じていたようですが、設定した時間内にほとんどの生徒がクリアできたものの、全員クリアとまではいけませんでした。

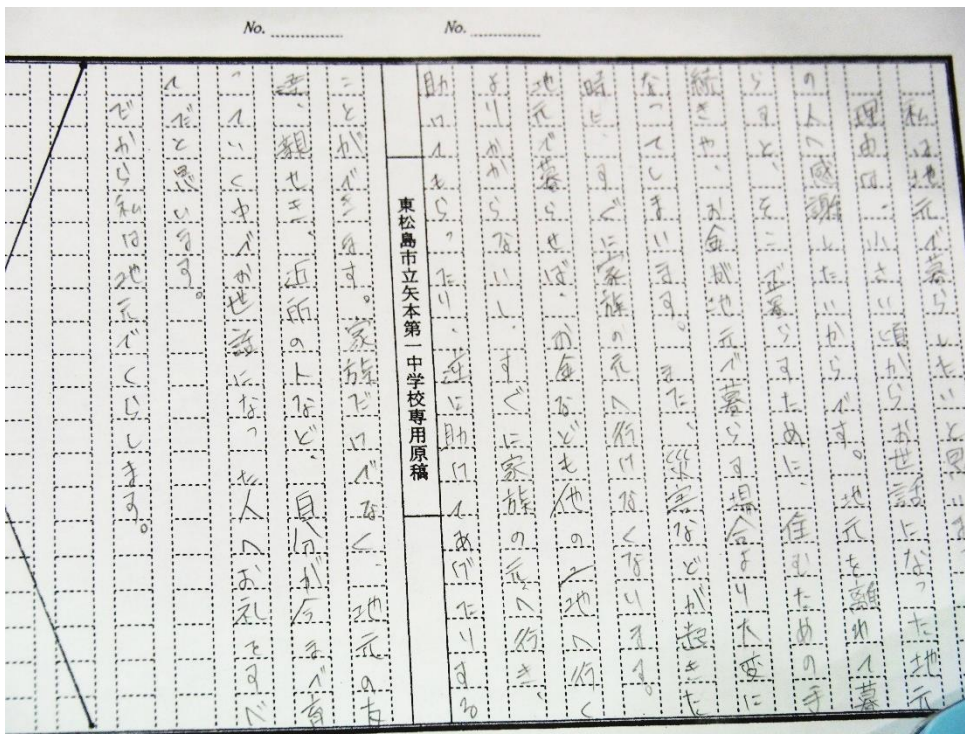
次の課題には、全員クリアすることを目標にして、課題2に取り組みました。

課題2（300字以内で書きます）

1年生は、課題1をこれからの中学校生活にどう生かすか書きなさい。

2年生は、課題1を4月に最上級生になる準備にどう生かすか書きなさい。

3年生は、課題1を自分の進路希望の実現にどう生かすか書きなさい。



課題2は、課題1より難しいと感じていたようですが、ごくわずかの生徒を除きクリアできました。こうした生徒たちに時間ぎりぎりまで支援していた矢本一中生の姿が素晴らしかったです。そして、あきらめずに取り組んだ生徒も素晴らしかったです。

さて、こうした授業の様子を、それぞれが振り返った記録がありますので紹介します。

(Aさん) 今日の授業で、気づかされることが多くありました。

それは、進路についてはもちろんですが、その他に、友情、助け合いの良さについてよく分かりました。人には得意、不得意があります。それは個性なので仕方ありません。しかし、不得意だからって、簡単にあきらめてはいけないし、得意だからって、困っている人を助けないのは違う、と強く感じました。

たとえ、応援することしかできなくても、文章と一緒に考えるま

でできなくとも、励ましの言葉によって生まれるものはたくさんあります。一人一人の力はとても大きいものになることがよく分かりました。

(Bさん) 「地元に残るか残らないか」今まで具体的にこの選択を考えたことはありませんでした。今日、教頭先生の話聞いて、地元とのつながりがいかに大切かを理解することができ、地元に残る選択のほうが私にはあっているのではないかと思います。

また、自分の進路について再確認することができました。

(Cさん) 都会の方で住むか、地方で住むかで、少子高齢化という考えまでは考えられなかった。

言いたいことがまとまっていない作文だったので、早さも必要だけれども、まとめるのも大事だと思った。

(Dさん) 私たちの身近な地域のために、私たちがどうすればいいのかと考えるいい機会になりました。私は、地元に残らないという選択をしました。しかし、家族を支えていかなければならないとなれば、地元に残るといふ選択をすることになると思います。ですので、良い意味で地域に名を刻み、戻ってきたときにしっかりと働けるようにしたいです。将来、どうなるかはわかりませんが、このようなことを頭の一部に入れて、考えたいです。

